

《学校評価シート1》  
平成29年度

学校名	県立ゆり支援学校道川分教室	評価領域	研究・学習指導
-----	---------------	------	---------

重点目標	人との関わりを広げる授業づくり ～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度、分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切にし、朝の活動・朝の会を取り上げて授業改善に取り組んだ。4つの観点から実態に合わせて焦点を絞った授業づくりを通して、周囲の状況や人への気付き、関心が高まり、友達や教師と共に学ぶ楽しさを感じ、一体感を持ちながら相手と関わろうとする姿が見られた。</li> <li>今年度はこれまで培ってきた人と関わる力を継続的な実践の積み重ねの中で上げていくことができるよう、「朝の活動・朝の会」を取り上げ、「自分の気持ちを表し、伝える姿」に焦点を当てて取り組む。</li> </ul>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の積み重ねを生かし、研究テーマに基づく実践的な授業研究を推進する。</li> <li>日々の教育活動の充実を目指した職員研修を推進し、専門性の向上を図る。</li> <li>学校評価の領域「学習指導」を平均評価点3.2（満点4.00）以上にする。</li> </ul>	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度・重複障害教育における授業改善を目指した授業研究会の開催や授業評価記録用紙の様式及び活用について検討し、実施する。</li> <li>重度・重複障害教育に関する校内研修会を実施し、専門性の向上と授業づくりに役立てる。</li> <li>公開授業研究会やホームページ等を通して、研究の成果や課題、研修に関する情報を発信する。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業研（2回）、公開授業研究協議会の実施</li> <li>アセスメントチェックリストの活用</li> <li>ケース検討会（児童生徒一人につき年3回）、授業づくり検討会（グループごとに年6回）を連動して実施</li> <li>自立活動学習会（5回）及び教材・教具研修会（2回）</li> </ul>	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業研や公開授業研を行うことで、様々な人の意見を聞くことができ、多角的な視点からの評価を得て授業改善に役立てることができた。さらにワークショップ型の研究協議会を実施したことで、活発に意見交換がなされ、協議が深まった。</li> <li>授業評価記録用紙を作成し、様式や活用方法の検討、改善をしたことで、日常的な活用がなされ、次時の授業づくりに生かすことができた。</li> <li>研究テーマに沿って授業改善を重ねながら目指す姿に迫るための授業づくりを実践してきたことで、児童生徒が自分の気持ちを表す場面が増え、教師や友達への関わりが広がってきた。</li> <li>自立活動学習会や教材・教具研修会等を実施することで、学んだ内容を授業づくりに生かすことができた。また、職員にアンケートをとり、ニーズに応じた職員研修を実施したことで、専門的な知識や技術を向上することができた。</li> <li>研究会、研修会の様子を早目にホームページにアップして情報発信できた。</li> </ul>	
自己評価 ----- (評価) A	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価領域「学習指導」の平均評価点は3.51。評価項目「教育課程や指導内容、指導方法、教材・教具は児童生徒のニーズに合っている」3.31、「職員は児童生徒の教育に熱心に取り組み、授業の充実や専門性の向上に努めている」3.64の評価点を果たした。</li> </ul>	C

<p>学校関係者 評価と意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議委員会では「教育目標や経営の基本方針の共有が図られている」「学習指導や生徒指導、進路指導、行事等の分野で継続的に改善がなされている」「保護者の満足度が高い」などの意見が出された。</li> </ul>	
<p>(評価) A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院関係者アンケートでは評価領域「分教室運営」の平均評価点が3.70、同「学校行事」が3.77である。「教育方針・運営計画の説明」「学習活動や学校行事」に関する連絡・調整・情報交換」等が適切に進められているとの評価を得た。</li> </ul>	
<p>自己評価及び 学校関係者評価 に基づいた 改善策</p>	<p>〈より良い授業づくりや指導力・専門性の向上のために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の成果や課題、児童生徒の「気持ちを表し、伝える姿（目標）」を踏まえた実践の継続。</li> <li>・外部人材を活用した公開授業研究会及び研修会の開催（ワークショップ型の研究協議の継続、情報発信）。</li> <li>・学習会や研修会、研修報告会の継続実施。</li> </ul>	<p>A</p>

《学校評価シート2》  
平成29年度

学校名	県立ゆり支援学校道川分教室	評価領域	センター的機能
-----	---------------	------	---------

重点目標	病弱教育に係るセンター的機能の推進	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度より「病弱・肢体不自由教育支援事業」を活用した取組を実施している。</li> <li>県内の病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校への訪問の際には、教育的ニーズに応じた具体的な指導方法の提案や助言が求められている。</li> <li>秋田きらり支援学校と連携・協力して秋田県病弱教育研修会を開催し、指導力や専門性の向上を図っている。</li> <li>病弱・身体虚弱教育に関する指導実践の蓄積・発信が課題である。</li> </ul>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の病弱・身体虚弱特別支援学級担当者に向けて教育的ニーズに応じた具体的な指導方法の提案や助言等を行う。</li> <li>学校評価の項目「センター的機能について、地域のニーズに応じた支援ができてい」「病弱教育に係るセンター的機能についてニーズに応じた支援が行われている」において平均評価点3.20（満点4.00）以上とする。</li> </ul>	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校訪問の実施</li> <li>秋田県病弱教育研修会等への協力</li> <li>病弱・身体虚弱教育に関する情報をホームページ等で公開</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問を7～10月に実施（病弱教育アドバイザーに同行及び特別支援教育セミナーによる訪問も含めて目標訪問率100%）</li> <li>秋田県病弱教育地区別研修会（夏季休業中県内3箇所開催）、秋田県病弱教育研修会（冬季休業中開催）の実施に当たり、秋田きらり支援学校への協力</li> <li>ホームページを通じて、病弱教育に関する情報発信（指導実践、病弱教育支援ガイド）</li> </ul>	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校（22校）への訪問を実施。児童生徒の実態や校内支援体制、学級の現状等を把握し、担当教員等への具体的な提案や情報提供を行うことができた（訪問率100%）。</li> <li>第2回病弱教育研修会には約170名（うち小・中・高等学校、福祉関係者14名）が参加した。事例発表と講演に関する参加者アンケートでは、参考になったという回答が95%得られた。</li> </ul>	
自己評価 ----- (評価) A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価では項目「センター的機能について、地域のニーズに応じた支援ができてい」が平均評価点3.45、「病弱教育に係るセンター的機能についてニーズに応じた支援が行われている」が評価点3.82で、高い評価となった。成果を踏まえ、病弱教育に関する専門性の維持・向上や、病弱教育に関する情報の蓄積及び提供の機会を確立する必要がある。</li> </ul>	C
学校関係者 評価と意見 ----- (評価) A	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置校訪問に関する聞き取り調査を実施し、訪問時期・人数・内容が「適切だった」と回答した学校が100%、訪問の「成果があった」と回答した学校が100%という結果が得られた。訪問時の指導・助言が、学級担任の不安感の解消や課題の解決につながり、その後の校内での指導体制や実践に生かすことができたとの感想が寄せられた。</li> </ul>	
自己評価及び 学校関係者評 価に基づいた 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度・重複障害教育に関する実践の蓄積・整理</li> <li>ホームページによる情報発信</li> <li>ニーズに応じた支援内容や情報の提供（特別支援教育セミナーへの協力）</li> <li>秋田きらり支援学校と連携継続（研修会の開催、東北病弱虚弱教育研究連盟研究協議会秋田大会開催・研究発表）</li> </ul>	A